

【用語】 駅場―公用荷物等の継立てを行う宿場 継立―宿ごとに人馬で荷物を継ぎ送ること 御料所―幕府の直轄地、天領、幕領 知行所―旗本などに分与された領地 小以―小計 入会―入り会い地 問屋―宿場の荷物運送等を総理した役人 年寄―問屋を補佐する下役人 本陣―大名や武家専用の宿舎 兼帯―兼任 惣高割―総石高に応じて割り付ける 振合―ことの状況、都合 助合―宿人馬が不足した時に近隣村へ課した夫役、助郷 領分―大名に与えられた領地 群馬郡中山村―吾妻郡高山村

【解説】 三国街道（三国通り）は、一般に佐渡奉行の順路、あるいは越後諸大名の参勤交代や越後出稼ぎ職人らの通行、越後米などの商品輸送路として重要な道筋である。上野―一宿のうち中山宿は、北は不動峠、南は中山峠に挟まれた山間村落で、沼田城から信濃国へ通じる真田道も横断する交通の要衝であった。町立ては慶長十七年（一六二二）に本田宿ができ、二人の間屋（丹波と和泉）が一五日交替で務めた。その後、寛永年間に新田宿が開かれ、正保年中から新たに継立て業務を開始した。

この文書は、幕府と旗本の相給地あいきさうであった中山村の本田・新田両宿の間屋・村役人らが宿の概要と助合村々を書き上げ、幕府の勘定奉行所の出役人へ提出した控である。村の総高一八七七石余、家数三〇五軒、旅籠屋七軒とあり、継立て業務は問屋三人が分担し、毎月一日から十日まで本田宿の丹波（本家）、十一日から十七日まで新田宿の丹波（分家）、十八日から晦日まで本田宿の和泉（本家）で務めていたことがわかる。なお、参勤交代などの大通行で人馬が不足する時には、不足分を隣郷から助合として徴発したが、中山宿では周辺七カ村が助合村であった。